



「東畑記念館」

—東畑精一博士—

公益財団法人日本植物調節剤研究協会 理事

東海支部長

横山 幸徳

「東畑記念館」は三重県農業研究所（松阪市嬉野川北町）の中にあり、そこに故東畑精一（東京大学名誉教授）博士に関わる資料が保管されていた。この資料は、学術的に高い価値があるものや、希少的価値のあるものが多く、東畑精一博士が農業関係者をはじめ多くの人々に活用されることを願い寄贈されたものである。現在、これら資料の大半は三重県図書館に移管（1996年）され東畑精一関係資料として別置きされ、目録が作成されている。

東畑精一博士は、1899年に三重県一志郡豊地村大字井之上（現：松阪市嬉野井之上町）の中堅地主（父：吉之助，母：芳子）の長男として生まれた。彼は、豊地小学校、三重県立第一中学校から第八高等学校を経て、東京大学農学部に進学。1922年に卒業し、1924年に東京大学農学部の助教授になった。アメリカ・ドイツに留学し、その時シュムペーター教授に師事し、近代経済学の学問的方法を学んだ。1933年に教授となり、農業経済学の体系化に努めた。1936年に博士論文「日本農業の展開過程」を著し、農業と経済を結びつけ、農業の動態的变化を経済変動として分析した。この書は日本の経済分野では、現在でも突出した不朽の名作として有名である。

また、第二次大戦後は第一次吉田内閣への入閣を要請されたものの引き受けなかったというエピソードもあるが、彼の学問的業績と人柄から、政界・財界との繋がりも深く農林漁業基本問題調査会や農政審議会の会長として、戦後の農政や農業基本法の制定に大きな役割を果たした。以降、農林省農業総合研究所所長（初代）、米価審議会長、農林水産技術会議長、アジア経済研究所長、鯉淵学園長、「日本農業年鑑」監修者、「日本農業発達史」監修者、その他数多くの農業団

体の理事や顧問等多くの公務や要職に就かれた。

三重県政との関わりとしては、田川知事体制の確立と三重県社会経済研究センターの設立があげられる。特に、三重県社会経済研究センター設立時の1974年5月にはセンターの会長となり、ドイツ留学時にシュムペーター教授に先に師事していた中山伊知郎博士（三重県出身）を顧問に招聘し、自由な研究機関として県政振興に努力した。東畑精一博士は、農業や経済に関する豊かな知識と暖かい人間味とのバランスの取れた人柄が効果的に作用していた会長であったと言われている。1964年に学士院会員となり、1980年に農業経済分野で初めての文化勲章を受章されている。

県への寄贈のいきさつは、1970年当時、「農業試験場」「蚕業試験場」「畜産試験場」を統合して、一志郡嬉野町川北（現：松阪市嬉野川北町）を本所とした三重県農業技術センター（現：三重県農業研究所）が発足し、同一敷地内に農業に関する試験研究・普及・教育の各組織も統合し、三重県経営研修所を移転し三重県農業経営大学校（現：三重県農業大学校）も建設するという、試験研究・普及・教育の一体化が県農業政策として示されたところから始まっている。1971年に「農業図書館」として建設され、三重県に寄贈されたという経緯がある。「農業図書館」の設計は東畑精一博士の弟で建築設計家の謙三氏によるもので、古い時代の伊勢平野の典型的な農家（かや葺き屋根）の形を模して建てられたものである（同年に中部建築賞を受賞）。館の名称については当初「資料館」として、「東畑」名は一切使用しないこととされたが、博士が1983年（84才）逝去された後、遺族の了解のもと「東畑記念館」とし、長くその名を残すこととなった。